

教育大運動 1741 推進ニュース

全国津々浦々で教育懇談会を行おう！

2024年4月4日
発行：教育大運動
1741事務局
No.22



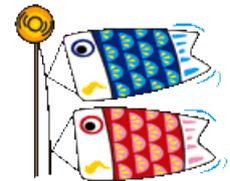
全教・教組共闘連絡会が「教育大運動 1741」を提起して約半年が経ちました。提起したときの実施要綱には、「子どもと教育をめぐる状況がかつてないほど厳しくなっている現在、声を上げなければ変えることができない情勢」であり「国や文科省の教育政策によって、教職員・保護者・地域が分断され、『教育改革』の名の下で上位下達の指示・命令が次々に出され」、その上「学校現場は長時間過密労働がまん延し、教職員が子どもたちの声を聴き、子どもたちに寄り添った教育を行うことを阻害しています」と現状を分析しました。

また、国連子どもの権利委員会から「過度に競争的な教育システムが子どもの発達の障害」をもたらしていると勧告されているが、日本政府は「(勧告に)拘束力はない」などと聞く耳を持たない態度を示しています。2024年は、日本政府が子どもの権利条約を批准してから30年になります。いまこそ、子どもの声を聴くことが重要になっています。

各地の教育大運動から学ぶこと

2023年度末まで約半年間の間に実施された「教育大運動 1741」は、21都府県(宮城、山形、埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、岐阜、山梨、新潟、長野、石川、福井、滋賀、京都、大阪、和歌山、岡山、広島、香川、福岡)、76自治体になりました。その中には、2023年度当初から予定されていた各地の「教育のつどい」を教育大運動に位置づけたものや、教職員組合や市民団体が企画した学習会を大運動とするとりくみなど、あらたに1から組み立てるばかりでなく、既存のとりくみを活用する方法も示されました。そこで気づかされたのは、全国各地に保護者・地域・教職員による「教育懇談会」がこれだけ豊かにあるということでした。「教育大運動 1741」はそうした歴史ある各地のとりくみに光をあてることにもなるのです。

また、子育て中の保護者のみなさんや、若い教職員のみなさん、地域の若者・青年がオンラインなども駆使して集い語り合う、新しい形の「教育懇談会」の可能性も広がっています。



子どもと教育のため、歩みを止めずにがんばりましょう

いま教室でも職員室でも地域でも家庭でも必要なことは「つながること」ではないでしょうか。ともすれば分断・孤立化が厳しくなる中で、励まし合い支え合う共同のとりくみが強く求められているのではないのでしょうか。行政や政治を変えるために、話し合いによって共同をつくり出す「教育大運動 1741」を全国各地に広げ、思いや願いを語り合い、声を上げることで国や文科省、自治体や教育委員会を動かしていきましょう。あきらめて黙ってしまうことは権力側の思うつぼです。あきらめずにしゃべり続けることがたかいです。さあ、大いに語り合しましょう！

教育大運動 1741 推進ニュースでは、各地でのとりくみを紹介していきます。
各地のとりくみ報告を送ってください。あれば写真も送付してください。

Mail: kyoikudaiundo1741@educas.jp

教育大運動 1741 はポータルサイトを展開しています。下記 URL か、二次元コードからご覧ください！



URL: <https://www.kyoikudaiundo1747.jp>

※ポータルサイトのアドレスは「1747」のままです！